

## 当社の一部鋼材製品における長さ公差外れ 出荷に関するお知らせ

今般、当社知多工場で製造した特殊鋼鋼材の一部につき、お客様要求仕様である鋼材長さ公差（ $-0+40\text{mm}$  以内）に対し、（ $-0+60\text{mm}$  以内）と上限を超える鋼材を出荷していたことが、社内調査により判明しました。

鋼材長さの公差外れの問題以外、お客様の安全・安心など製品品質に影響する具体的な問題は確認されておりませんが、規格外の製品を出荷していたことは事実であり、本日公表させていただくとともに、鋼材製品に関連するお客様に対して丁寧な説明を進めてまいります。

また、一部のJIS規格品について、過去の手続きの不備が判明したため、一時的に出荷を自粛し、今後の対応につき関係各所・認証機関にご報告・ご相談をしております。お客様の要求仕様と異なる基準で出荷を行うという不適切で信頼を損なう行為により、お客様や当社株主の皆様をはじめ関係各所に多大なるご迷惑とご心配をおかけすることとなりましたことを深くお詫び申し上げます。

今回の判明を受け、なぜこのような事態を発生させてしまったのかの原因究明と再発防止を図ることが最優先でやるべきことと考え、トップを含め役員層が現場の声に耳を傾ける活動を実践するとともに、弁護士を含めた特別調査委員会を設置することで、信頼回復に全力で取り組んでまいります。

### 1. 判明までの経緯

3月上旬に主要顧客 A 社より鋼材が公差の長さより長いとのご指摘を受け、社内で調査を行ったところ、以下の事実が判明後、監督官庁、業界団体、JIS 規格認証機関にご報告

- (1) お客様との契約は（ $-0+40\text{mm}$ 以内）となっていたのに対し、社内では（ $-0+60\text{mm}$ 以内）との基準で検査を実施の上、出荷していた。
- (2) 上記の不適切行為については、2016 年実施の JIS 規格鋼を対象とした内部調査で判明し、直ちに、検査基準を（ $-0+40\text{mm}$ 以内）に是正した。しかしながら、JIS 規格鋼以外の是正を実施していなかった。さらに監督官庁、業界団体、JIS 規格認証機関の届け出も実施していなかった。

### 2. 対象製品

知多工場から出荷した 直径 10~100mm の丸棒鋼材の一部

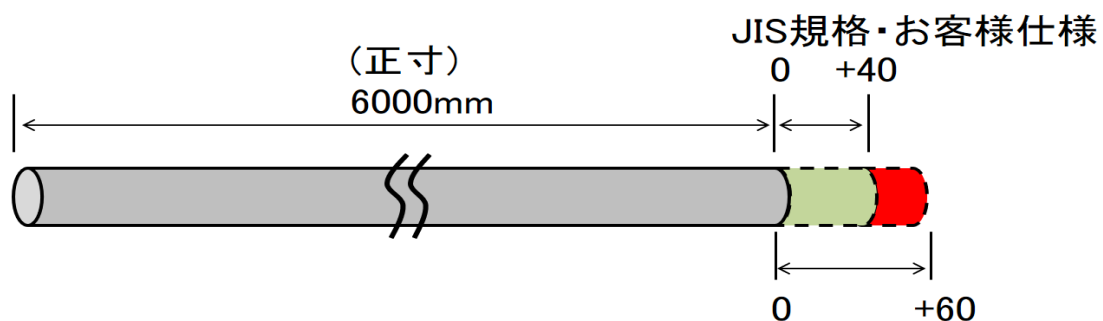


図1. 材料長さの模式図

間違った管理基準

### 3. 原因

- ・法令順守の観点から、2016年にはJIS規格鋼を是正処置。それ以外は長さが長い分には品質に大きな影響ないと勝手に判断し、是正処置を後回しにしていた。
- ・長さ公差と運用基準が合っていないことは経営陣まで報告していたが、最後までやり切ることができていなかった。
- ・「生産」優先の風土があり、JIS規格鋼やお客様との契約が絶対であるという考えが浸透していなかった。

### 4. お客様への影響

(-0+40mm以内)の長さ公差を外れて出荷した部分の重量が知多工場出荷重量に占める割合は、約0.002%でした。お客様の製品品質に影響する具体的な問題は、現時点で確認されておりません。

### 5. 再発防止策

#### (1) 全社的な品質保証体制の構築

- ① 不適切な検査行為の是正(完了)
- ② 鋼材長さ調整能力の向上(完了)
- ③ 規格と検査基準の整合性について全社総点検を実施中

#### (2) 現場に寄り添う活動の実践

トップを含め役員層が現場の声に耳を傾けるとともに「全品良品」の原則をメンバーひとりひとりに浸透させる活動を粘り強くやっていく

#### (3) 特別調査委員会の設置

##### ① 目的

真因究明と再発防止策の徹底を図るとともに他の製品で同様の管理が行われていないかを調査

##### ② 委員会メンバー

当社との間に直接的な利害関係はなく、独立性・中立性をもつ社外弁護士を中心に、社内の関連部門から人選

##### ③ 調査結果

他の製品で同様の管理が行われていた場合は速やかに是正し、報告いたします。また再発防止策の内容についても後日報告させていただきます。

以上